

平成 30 年 11 月 6 日  
目黒区立第十中学校 PTA  
会長 福谷 秀樹  
家庭教育委員長 金子 道

平成 30 年度 家庭教育講座のご報告  
『AI 時代を生きる子どもたちについて親が知っておくべきこと』

講演者： (一社) 教育デザインラボ代表理事 石田勝紀先生  
日時： 平成 30 年 10 月 6 日 (土) 午前 10 時～12 時  
場所： 目黒区立第十中学校 被服室 参加者： 48 名

◆ 講演要約 ◆

これまで、約 3,500 人の小学生から高校生までの生徒を見てきた中で、勉強ができない子には共通する習慣（できる子の習慣の真逆）が 3 つある。

① 生活習慣（あいさつができない。時間を守れない。整理整頓ができない。）  
【あいさつ】 主体性、前向きさの表れ。自分からあいさつしてくる子には情報が集まる。人が集まる。評価も良い。  
【時間】 日常の些細なところが守れているかどうかが重要。日常のメリハリがつけられない子はテスト前の時間のメリハリがつけられない。  
【整理整頓】 物理的な整理整頓は、情報整理、頭の中の整理整頓につながっている。中学生男子は整理整頓できない子が多いが、ある程度は整えたほうがいい。整理整頓できるようになっただけで、成績が上がった例もある。

② 勉強のやり方を知らない  
書いて覚える、というやりかたは間違っている。覚えるというのは、繰り返し自分でテストをし続けること。繰り返すプロセスの中でインプットされる。勉強ができる子は、例えばクラスメイトを歴史上の人物にあてこんだり、国語の文章を読みながらツッコミを入れたりして頭の中で遊びながらやっている。勉強のやり方を教えるタイミングは、子どもがやってみたい、自分はもしかしたらできるんじゃないか？と錯覚を起こすと自分からやり始めるので、そこで勉強のやり方を教える。勉強のやり方は決まっているので、成績を上げるのは難しい。

③ 心の使い方を間違っている  
勉強ができない子は、自分はバカだ、勉強が苦手だと思いこんでいる。できないものばかり探してドツポにはまる。苦手なものには近づきたくないから、やらない。ますますできなくなる。失敗を恐れている。学ぶのが目的なのだから、日頃は間違ったほうがいい！これを子ども時代にインプットしておくのと大人になってから失敗を恐れずチャレンジできる人になる。チャレンジすることが楽しいという風になる。

勉強をやるコツ

●やり方がちゃんとわかっていること。  
●手帳みたいなものをつけて、自分のやっていること（自分のやるべきこと、やったこと）を「見える化」させる。やったら赤で消す。成長していることを「見える化」する。どこに向かい、今、自分はどこにいるのか、どこまで終わったのか、を「見える化」する。少なくともテスト前に実践できると良い。

この 3 つをやれば、成績を上げるのは難しくない。それよりも、人を大切にできる人間になるとか、自分の才能を活かしてハッピーな人生を送れる人になる力を育てるほうが難しい。ここからは、その力を家庭でどう育てるかという具体的なお話。まずは、世の中どう動いているかを知るところから。

世界の時価総額トップ 5 にみるこれからの教育

資料によると、2018 年の日米大企業の時価総額は 1 位のアップル（101 兆円）を筆頭に、上位 5 位はすべて米国の IT 企業が占めている。一方の日本は、36 位のトヨタ自動車（21 兆円）を筆頭に、日本を代表するメーカー企業 7 社をすべて合わせても 15 兆円。この数字が今、世の中がどう動いているかを表している。教育政策は人材政策なので、その時の時代の中で力のある企業群が、議員に働きかけ教育政策を決めている。このような企業群とオーストラリア、シンガポールなどの色々な国が集まって作ったプロジェクトが ATC21S（「21 世紀型スキル」…21 世紀はこういうスキルを持った人間にすべきというもの）。これを受けて文部科学省が「21 世紀型能力」を作り、再来年からの学校カリキュラムに落とし込んでいる。文部科学省の「21 世紀型能力」と世界で語られる「21 世紀型スキル」で想定している人物像というのは、自分で考え、表現し、判断し、実際の社会で役立てる人物。今までは違っていたのか？それではまずいというわけで、21 世紀型モデルに切り替わり、2020 年からの教育が変わる。

2020 年 教育は何が変わるのか

●学習指導要領の改訂（2020 年に小学校、2021 年に中学校、2022 年に高校の学習指導要領が改訂される。）  
●大学入学共通テスト実施

沢山の企業研修を行い多くの企業を見てきた中で、伸びる企業は 21 世紀型（若者、女性が全面に出て、昭和のおじさん達は後ろでバックアップ）。一方で、減収減益の企業は昭和のおじさんが支配している 20 世紀型。今までは計画→実行→反省→実行（PDCA）で動いていたが、今は、面白い→やる→面白い→やるという 2 サイクルで動くというやり方が伸びている。今、価値観の転換期に来ている。20 世紀型はダメというのではなく、20 世紀型だけではなく、21 世紀型もミックスされるといいのでは。

今の子どもたちにどう対応していけばいいのか

「考える力」「表現する力」そしてそれに「付随する知識」を育てる。→著書の研究で、教科書の字面を追っているだけでその意味がわかっていない子どもが小学生の半数、中学生の 3 分の 1 もいた。字面を追うだけでは AI と同じ。むしろ情報処理能力の高い AI に負ける。「意味を理解する人」を作っていくことが大事。家庭でできることは日常生活で「思考習慣、表現習慣、学び習慣」を作ることが手っ取り早く効率的。この力はパソコンでいう OS。子どもの OS（地頭）を育てるのが家庭の役割で、ソフトウェアにあたる各科目を育てるのが学校の役割。

家庭で育てられる！子どもの3つのOS

- ① 考える力・表現する力→偏差値も高める“超重要能力”  
Why（なぜ？）を問われると子どもは考える。答えは出なくていい。考えるだけで脳は活性化される。
- ② 創り出す力（Create）→好奇心や主体性、ワクワク感を引き出す力  
新しいものを創り出すことができる人がこれからは必要。子ども時代の外遊びや喧嘩の中でも育つ（口げんかでも相手を負かそうと考える）。  
How（どうすればいいかな？）困ったときにどうすればいいか、親が解決法を言ってしまうと、どうすればいいかな？と聞くだけ。子どもに考える場を与える。
- ③ 人を大切にする力→幸せな人生を歩むための力  
人を大切にする人は人に大切にされるし、やりたいことを周りが応援してくれる。考える力や創造力があっても、この力がなければ周りに人が寄ってこない。学歴関係なく、成功している人に共通する力。自分が満たされていると人を大切にできる。家庭でできることは、子どもの自己肯定感を引き上げること。ポイントは人と比べないこと。勉強以外の子どもの良い部分→これが才能につながっている。例えば、人と仲良くできる。何かを器用にできる。その子の中で見た 1 番 2 番 3 番に良い部分を引き上げる。そうすると子どもは満たされ安心するから、苦手なことや嫌なこともやってもいいかなと思えるようになる。この仕掛けを作る。子どもの自己肯定感を引き上げると親の自己肯定感も上がる。これが一番重要。褒め続けて調子に乗ってもいい。どんどん調子に乗らせていい。出る杭はどこかで打たれるから。でも出てない杭を引き上げるのは大変。だからどんどん引き上げていい。→人材育成でも長所伸展法（いい部分をさらに伸ばす。悪い部分はいじらない。）が正しいといわれている。

この 3 つ（考える力・創り出す力・人を大切にする力）を家庭での言葉がけで高める。言葉の力で変える。自己肯定感を上げる。言葉がけは、家庭ですぐにできる！

子どもの才能は埋もれている！才能の見つけ方

～才能を引き出すためには見つけないといけない～  
子どもの才能というのは通常は露出してない。地層の中にあって見えない。幼いころから才能が露出している子もたまにいるけれど、通常は下のほうに埋もれていて見えない。それが見えるようにするには、地面を削るしかない。ワンパターンな生活をしていたら削れないから見えてこない。いろいろなことをやってみて、様々な経験をしたり失敗したりして“地面を削る”と出てくる。例えば日常で微妙な変化をつくる。いつものありかたとは若干違うことをやる。日常で変化が生まれると→刺激が生まれる→地面が削れる。起業家の研究をしたときに、研究対象者全員が海外への長期一人旅や学生時代にたくさんのアルバイトをしたり、日本一周をしたりと、活動的にやっていたことを知った。彼らはその中で自分のやりたいことに出会い、その後それをビジネスにしている。いろいろな場に行ったり様々な経験をしているうちにだんだん見えてくる。

～子どもの才能は「大好きなこと、好奇心があること」の「裏」にある～  
例えば野球にはまっている。このまま甲子園→プロ野球に行けるかも…と思うが、その可能性は低い。その子はプロ野球選手にはならないかもしれないが、野球にはまっているというその一つ奥に才能がある。なんではまっているのだろう？と考えてみると、人と仲良くするのが好き、グローブやバットなどの道具が好き…等、はまっている動機の部分が職業につながる。

子どもの好奇心を引き出し「賢い脳」を作るマジックワード

要するに？/ 例えば？/ なぜ？/ どう思う？/ どうしたらいい？/ 楽しむためには？/ そもそも？/ もし～だった

らどうなる？（空想することが刺激になる）/ 本当か？（その情報は本当？）

自己肯定感を引き上げるマジックワード

承認「すごいね」「さすがだね」「いいね」/ 感謝「ありがとう」「うれしい」「助かった」/ 関心「なるほど」「知らなかった」/ 安心「だいじょうぶ」/ 指摘「らしくないね」（子どもがマイナスのことをやった時に使う。本来のあなたは認めているけど、今、目の前のことは違うよねというニュアンス。）  
マジックワードは、軽く、明るく、さりげなく使う。そのほうが相手にじわ～つと入る。だらだらと長く話すと効果を失う。これらの言葉は親の「プラスの感情表現」であるため、素直に感じたことを言語化するのが良い。

子どもの自己肯定感を壊すブラックワード

「ちゃんとしなさい」「早くしなさい」「勉強しなさい」…言われて前向きに行動を起こすか考えてみて。（会場ではみなさん苦笑されていました。）

新しい時代を生きていく子どもたちが、楽しく、幸せな人生を歩めるように、彼らの才能を引き出すために家庭で出来ることを具体的に、わかりやすくお話していただきました。2 時間があったという間に感じる盛沢山の内容でした。

- 《アンケート結果》  
参考になった（45 名）まあなった（1 名）/ 実践したいと思った（44 名）まあ思った（2 名）  
～参加者の感想（抜粋）～  
・言葉の重要性は重々承知しており、ポジティブアプローチを試しているのですが、つい「どうして出来ないの？」と言ってしまいます。一旦 心を整理し、改めて「マジックワードを投げかける」をスタートしたいと思います。  
・普段の生活の中での言葉の掛け方を少し変えるだけで、子供も自分も前向きに明るくなれるヒントをたくさんお聞かせいただいたので、実践しようと思いました。  
・ブラックワードをたくさん使っていたので、今日からはマジックワードを使って、子育てに前向きに活かしたい。  
・生活習慣とスケジュール作成をしっかりとさせたいと思いました。  
・全て参考になりました。期待以上でした。参加して良かったです。  
・石田先生のお話が楽しくて、解り易く、即実践したいと思いました。ブログやママC a f e にも参加してみたいです。  
・子供への声掛けが間違っていたなど、反省です。  
・先生のお話を、是非子供たちにも聞かせたいと思いました。  
・とても楽しく「なるほど」、「そうなのか」という点がたくさん有り、勉強になった。もっと聞きたいと思う内容でした。  
・今の時代に合った子育てのヒントやアドバイス、とても参考になりました。東洋経済オンラインや LINE@なども、是非利用していきたいです。

多数の皆様にご参加いただき、講演は大盛況のうちに終了することができました。本講座をお引き受け頂きました石田先生はじめ、講座準備をお手伝い下さったスタッフの皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。家庭教育委員会委員一同